

「のともキッズキャンプ」

1 趣 旨

- ・ボランティアが、職員の支援のもと、事業を企画・実施することを通して、企画力・運営力・コミュニケーション能力を身につける。
- ・異学年交流を中心とした体験活動を通して、様々な人や物、事と触れ合い、コミュニケーション能力を高める機会とする。

2 日 程

(1) 期 日 平成31年2月9日（土）～11日（月）2泊3日

(2) 参加者 ボランティア16名（企画6名、当日班付き10名）
子供55名

内訳 男子 小学4年生 21名 ・ 5年生 4名 ・ 6年生 6名
女子 小学4年生 7名 ・ 5年生 10名 ・ 6年生 7名

(3) 日程内容

	2月9日（土）	2月10日（日）	2月11日（祝・月）
午前		○灯ろうウォークラリー	○屋台ブースで遊ぼう
午後	○開講式 ○アイスブレイク ○手ぬぐい染め・うちわ作り	○灯ろう作り	○ふりかえり ○閉講式
夜	○キャンプファイヤー・花火	○灯ろうに明かりをつけよう	

【企画会議の様子】

キャンプの3か月前から、企画会議を開催し、企画ボランティアを中心に全4回話し合いを重ねた。ブレインストーミングなどの手法を使い、キャンプの内容やねらいを深めていった。キャンプ前日には、班付きボランティアも集まり、キャンプの最終確認を行った。



【手ぬぐい、うちわ、灯ろう、屋台ブースつくりの様子】



【灯ろう点灯式】

日中は灯ろう作りを行い、夜は、各班で作った灯ろうで文字をつくり、点灯式を行った。一日の振り返りを、灯ろうを見つめながら行い、自分自身を見つめる様子が見られた。



一日目、子供たちは緊張している様子で班付きボランティアが間に入って話す様子が多く見られたが、物作りを通して、子供たちは、互いに協力し合い、二日目は、積極的に班のみんなで話し合い、助け合う様子が見られた。

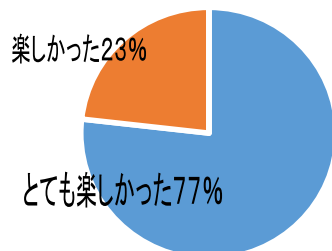
3 成果と課題

(1) アンケート結果

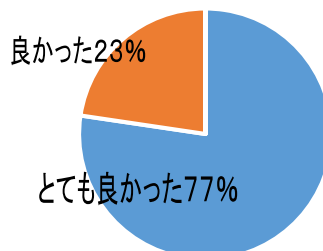
事業評価を目的とし、参加者を対象に調査を実施した。

①参加者の評価（アンケートより）

キャンプは楽しかったですか？



お兄さん、お姉さんはどうでしたか？



②ボランティアの評価（アンケートの自由記述より）

【企画ボランティア】

- ・事業を通して、周りに支えられている自分がいること、責任感、判断力、見通しをもつこと、自信を持って何事も行うことを学んだ。
- ・今回の自主企画事業で初めて達成感を味わえた。企画の進め方や、内容等含めて、初めてのことが多く、たくさんの学びがあった。この3カ月の過程は必ず活かしていきたい。

【当日ボランティア】

- ・他のボランティアに色々なレクリエーションネタを教えてもらった。今後活かしていきたい。
- ・他施設のボランティアと活動することで、子供たちとの話し方や、一つ一つの活動のねらいをもたせることなど、新しい発見が多くあった。
- ・子供達との関わり方で、最後に子供達から「また来てほしい」などの声が聞けた。自分のコミュニケーションに自信をつけることができた。
- ・ボランティアの仲間が増えて、これから自分の活動を広げていけたら良いと思った。
- ・自分達の班をまとめるために「次に何をしなければいけないのか」を全員で会議する場を作った。それにより、子供達自身で考える良い場になった。

(2) 成果

- ・企画委員会を設置し、全4回の企画会議を計画的に開催した。
- ・今回は、他施設のボランティアが全国各地から多く集まったことで、子供との関わり方や、声かけ、行動を互いに見て学び、良い刺激となったと言える。
- ・初めて企画から関わったボランティアが、事業終了後のふりかえりの際、「ボランティア経験の多さを活かして、子供の前で話すのは自信があった。しかし、実際に行うと、伝えることは難しいと感じた。この経験を次に活かしたい。」といった感想が持てた。学生にとっては自らの課題を見つめるなど、有意義な研修になった。
- ・募集定員に対して、2倍近くの参加者の応募があった。「のともキッズキャンプ」の知名度が上がってきたと言える。

(3) 課題

- ・ボランティアの確保が難しく、遠方からの参加が多くなった。
- ・予定されていた実施時期で企画メンバーが集まらず、日程を変更しての実施になった。来年度の実施時期については、ボランティアから話を聞くなどして、進める必要がある。
- ・ボランティアにあらかじめ、予算を伝え、計画的に、必要物品をリストアップしてもらう必要がある。
- ・ボランティアには、今回だけのキャンプで参加を終わるのでなく、今後も継続して参加してもらえるような、工夫を考えていく必要がある。